

The 2023 AUA Annual Meeting での研究発表



目で見る
海外論文発表

栗林宗平*

Presentation at the 2023 AUA Annual Meeting

Key Words : male infertility, creatine, chemical exchange saturation transfer

<参加会議名> The 2023 AUA Annual Meeting
<開催場所> Chicago, Illinois, United States
<渡航期間> 2023年4月27日~2023年5月3日
<発表タイトル>
A Novel and Feasible Method for Quantifying Testicular Spermatogenesis by Using Creatine Chemical Exchange Saturation Transfer Imaging.

このたび、アメリカ合衆国のシカゴで開催されました2023 AUA (アメリカ泌尿器科学会) Annual Meetingに参加し、Moderated Posterセッションでの発表を行いました。本学会はアメリカ泌尿器科学会による世界最大規模の学会であり、世界各国から泌尿器科医が集結しておりました。新規のデバイスや手術方法に始まり、基礎研究まで泌尿器科疾患に関して活発な議論が行われていたのがとても印象的でした。

私は、男性不妊に関する研究を行っており、中でも男性不妊患者における術前のナビゲーションシステム開発を目指し研究を行っております。組織内のクレアチンを画像化するCr-CEST (Creatine-Chemical Exchange Saturation Transfer) という新規のMRI撮像方法を用いてマウス精巣の造精機能を評価することが可能となったという事をポスターセッションにて発表いたしました。発表は、

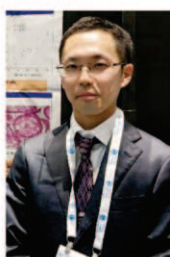
30分間ポスターの前で直接質問を受けた後、口頭で1分発表し、そのあと質疑応答があるという形式でした。座長や会場に参加している先生方から直接質問を受け、良い研究だとお褒めの言葉もいただき非常に有意義な時間でした。

一方で、質問に対する返答はできるものの、自分の言いたいことが中々スムーズに言えないことや別のセッションでスピード感のある英語でのやり取りについていけないことなどを痛感し、これからも英語学習を続けていく必要がある事を再認識いたしました。また、日本とアメリカの物価の差も身にしみて感じる事ができ、このような経験は、海外に行ってこそ感じられるものであり、非常に刺激的な時間となりました。

最後に、このような海外学会での経験をつむにあたりご支援いただきました、生産技術振興協会の皆様、海外論文発表奨励賞の審査に携わってくださりました先生方に厚く御礼申し上げます。



登壇発表の様子



* Sohei KURIBAYASHI

1989年3月生まれ
大阪大学医学部医学科 (2013年)
現在、大阪大学医学系研究科 器官制御
外科学 (泌尿器科) 大学院博士課程4年
専門/男性不妊
TEL : 06-6879-3531
E-mail : kuribayashi@uro.med.osaka-u.ac.jp



上司、ラボメンバーと撮影



会場の様子